

子どもを性被害から プライベートゾーン 守るために伝えたい

プライベートゾーンは、自分だけの大切な場所です。プライベートゾーンとは何か、どうして大切にするのかなど、ふだんから正しい知識を子どもにわかりやすく伝えることが大切です。幼児期から「自分の体は自分のもの」ということを知って、万が一の時に、安心して助けを求められる環境をつくるのが、子どもの自己肯定感や防犯意識を育てます。

プライベートゾーンって なに？

※子どもたちに見せてお使いください。

からだの とくに
たいせつな ところを
プライベートゾーンと
いうよ！

プライベートゾーンは
みすぎで かくれる
ところと くちだよ

みせたり さわらせたり
みたり さわったり
しないよ

家族でも勝手に見ない・触らない

「家族だから」と子どものプライベートゾーンを、同意なく見たり触ったりしないことが大切です。入浴や着がえ、薬を塗る時などに「これから〇〇するね」と、声をかけてから行うようにします。また、排泄した後は、しっかり拭いたり、入浴時には優しく洗って、プライベートゾーンをいつも清潔にしておくことを伝えてください。

幼児が自分自身を守るための「NO・GO・TELL」

子どもたちが自分を守るには、具体的な行動を身につけることが大切です。プライベートゾーンを見られた、触られた時はもちろん、「怖い・不安・痛い・腹が立つ・悔しい」などの、嫌なことをされた時は、「NO（嫌という）」、「GO（逃げる）」、「TELL（話す）」の3つの行動をとることを、くり返し伝えてください。家庭での練習が、子どもをトラブルから守ることにつながります。



NO
いやとい
う



嫌なことをされたら、いわれたら、はっきり断る

嫌な時は、相手がだれでも「いや」「やめて」「助けて」ということを伝えます。家庭でも子どもがくすぐるのを嫌がったらやめるなど、おとなが「NO」を受け入れることが大切です。

GO
すぐに
逃げる



知っている人や身近な人でも、迷わず逃げる

「嫌だ」「怖い」と感じたら、すぐに逃げるように伝えます。知り合いや親戚であっても、違和感があれば離れて、できるだけ人の多いところに逃げるようにします。

TELL
信頼する
おとなに
話す



「内緒だよ」、「秘密だよ」といわれても話す

小さなことでも、信頼できるおとなに話すことをくり返し伝えます。もしも、「秘密にして」といわれても、守らなくてよい、怒られないと伝えることも大切です。

NO・GO・TELLができなくても「あなたは悪くない」

嫌なことをされた時に、子どもが恐怖や混乱で声が出ない、動けないのは当たり前のことです。どんな状況でも、被害にあった子どもに責任はありません。子どもが、うまく逃げられなかった自分を責めないように、「何があってもあなたは悪くない、悪いのは100%相手」ということを伝え、安心して話せる環境をつくってください。